

# 東京大学

## 理学部広報

第4巻 第7号 昭和47年12月20日

### 10月理学部会合日誌

- 2日(月) 14:00~16:00 理学系研究科委員会  
3日(火) 14:30~16:00 総合計画委員会  
4日(木) 15:00~17:00 主任会議  
6日(金) 15:00~17:00 アイソトープ委員会  
11日(水) 10:00~11:30 人事委員会  
18日(木) 15:30~17:00 会計委員会 教務委員会  
23日(月) 12:30~13:40 学部長と理職の定例交渉  
25日(水) 14:00~16:30 教授会  
26日(木) } 全国国立大学理学部長・事務長会議  
27日(金) }

(於東京工大)

### 11月理学部会合日誌

- 8日(水) 13:30~17:00 教務委員会  
13日(月) 14:00~17:00 理学系研究科委員会  
15日(水) 14:00~17:00 教授会  
17日(金) 15:00~17:00 アイソトープ委員会  
20日(月) 12:30~13:40 学部長と理職の定例交渉  
27日(月) 13:30~15:30 会計委員会

### 教授会メモ

- 10月25日(水) 定例教授会 於理4号館会議室
1. 前回議事承認
  2. 人事異動等報告
  3. 研究生の入学および期間延長について
  4. 東京大学理学部規則の一部改正について
  5. 人事委員会報告
  6. 会計委員会報告 昭和47年度設備更新費配分案の

説明の後、次年度以降の配分方法に関する議論があった。

8. 教務委員会報告
  9. 総合計画委員会報告
  10. 幹事会報告
    - イ) 自己規律に関するアンケートの結果について
    - ロ) 総長、部局長選任について
    - ハ) 幹事の交代: 10月末で現幹事の藤田, 黒田, 寺山, 佐々木教授が任期(一年)を終えるので, 次期幹事として木村(俊), 田丸, 下郡山, 宮沢の4教授がえらばれた。(新幹事長は植村教授)
  10. その他
    - イ) (研究目的の) 外国出張における旅券の取り扱いについて。(この件については、「学内広報」No. 174を参照)
    - ロ) 高校指導要領改訂に伴う入学試験範囲の変更について
- 11月15日(水) 定例教授会 於理4号館会議室
1. 前回議事承認
  2. 人事異動等報告
  3. 人事委員会報告
  4. 教務委員会報告
  5. 幹事会報告
    - イ) 大学院制度改善に対する理学系の意見について
    - ロ) 外国人留学生募集の件
    - ハ) 総長制度について
    - ニ) 教授会前の講演について  
定期的でなく、適宜行なう。第一回は情報科学関係で、12月または1月の予定。
  6. その他

## 教官人事異動 (除 退・休職)

氏名	教室	異動内容	発令年月日
塩田 徹治	数学	助教授に昇任	47.10.10
浜野 洋三	地物	助手に採用	47.10.1
館 鄰	動物	同上	47.10.10
内藤 周弼	化学	同上	47.10.16
戸塚 洋二	物理	同上	47.10.20
猪飼 篤	生化	同上	47.11.1

## 外国人客員研究員

教室(所属)	国籍	氏名	研究期間
地球物理	米国	Harold Solomon	47.11.9~ 48.11.8

## 理学博士学位授与者

昭和 47 年 10 月 2 日付授与者

学位規則 第3条2 項該当	氏名	論文題目
	宇佐美誠二	タングステン単結晶面の気体吸着
同	神谷 美江	ウナギの海水適応とえらの Na-KATP アーゼ

昭和 47 年 10 月 20 日付授与者

学位規則 第3条2 項該当	氏名	論文題目
植物学	蘇 雄永	Early Ontogeny of Vascular Cambium (維管束形成層の起原に関する研究)

昭和 47 年 11 月 13 日付授与者

学位規則 第3条2 項該当	氏名	論文題目
	梶村 皓二	Fluctuations in the Resistive Transition in Superconducting Aluminum Films (超伝導アルミニウム薄膜の抵抗遷移におけるゆらぎ)
同	水町 芳彦	Observation of the Čerenkov Radiation from a Plasma. (プラズマからのチャレンコフ放射の観測)
同	井出 宏之	Studies on the Formation and Retention of Pigment in the Chromatophores of Bullfrog Tadpole. (ウツガエル幼生の色素胞における色素の形成と維持に関する研究)

## 学部長と理職との交渉

定例の交渉が 11 月 20 日, 12 時半から約 1 時間, 理学部会議室で行なわれた。学部側出席者は小平学部長, 植村評議員, を含め 8 名, 理職側出席者は曾田委員長を含め 10 数名であった。

議題に入る前に理学部新幹事および理職三役の紹介があった。続いて, 理学部長より, 会合中粗野な言葉を使わないこと, 健康上の理由により毎回は出席できない旨発言があった。理職側は可能な限り学部長が出席されるよう要望した。

理職側から提出された議題は, 1) 交渉において合意に達した事項の確認のし方, 2) ベース・アップによる差額支給日, 3) 総長および学部長選挙, の3つであった。

1) について, 理職側は確認事項を文書にしたいと要望した。両者検討の結果, 重要事項を従来通り理学部広報に掲載することになった。なお学部側より, 理職側の議題を交渉前に提出して欲しい旨の要望がなされた。

2) 理職側より, 差額支給日を早くするよう働きかけて欲しい旨の要望があった。学部長はその旨を本部に伝えると約した。

3) 総長選挙制度について, 理職側より, 「総長選挙制度に関する総長側と三者との協議の会」および三者提案の内容の説明と, 上記の協議の会に対する支持と, 三者提案の内容についての学部の見解を求めた。学部側は総長を信任している, 上記協議会の結論について総長より諮問を受ければ学部としての意見を報告すると答えた。

学部長選挙について, 理職側から, 理学部全構成員が学部長選挙になんらかの形で参加するが望ましいという見解がだされ, これについて議論した。

## 昭和48年度

### 大学院理学系研究科博士課程

### 学生選考について

出願資格	本学において昭和48年3月修士の学位を得る見込みの者	1. 本学において修士の学位を得た者 2. 本学以外の大学において修士の学位を得た者および48年3月修士の学位を得る見込みの者 3. 外国の大学において大学院の修士課程と同等以上と認められる課程を修了した者

出願期間	48年1月16日 (火)～1月20日 (土)	48年1月29日(月) ～2月10日(土)
選考期日	各専門課程で 定める	48年2月20日(火) 21日(水) 健康診断21日(水)
合格者発表	48年3月13日 (火)	48年3月13日(火)

(注)1. その他詳細は、博士課程学生選考要項を参照すること。

2. 出願期間は、厳守する。指定の期間を過ぎた場合は、どのような事情があっても、願書は受理しない。

理学系研究科

## 昭和47年度教育職員免許状 一括申請について

標記のことについて一括申請を希望される者は、受付(窓口)にて免許状授与願を請求の上、下記により理学部教務掛宛提出して下さい。

記

- 資格 (イ)昭和48年3月に卒業と同時に教職免許状を取得しようとする学部学生  
(ロ)昭和48年3月に修了と同時に教職免許状を取得しようとする修士課程学生  
(ハ)上記(イ)または(ロ)に該当するもので教職に関する科目を修得しているか、昭和48年3月までに修得見込の者
- 提出書類 教育職員普通免許状授与願(昭和47年度一括事前審査用)
- 単位修得証明願 昭和48年3月修士課程修了予定者で大学院在学中に教職に関する科目を修得した者および修得見込の者は、授与願と同時に「単位修得証明願」を提出すること
- 申請料 免許状1通につき100円
- 申請締切 昭和48年1月31日
- 願書には、本籍地の市・区・町村長または特別区長の身元証明を必要としますので、締切日に間に合うよう十分注意すること。

## お知らせ

(1) 1973～74年度アメリカ Smithsonian Institution による各種研究生の募集について

研究分野: 生物学, 化石分類学, 動物病理学, アメリ

カ芸術, 人類学, 考古学, 民族学, 古生物学, 岩石学, 流星学, 数学史, 科学史, 医学史, 薬学史, 機械および土木工学史, 電気工学史, アメリカ史(政治, 文化, 宇宙開発)

給費: ① 博士取得者研究コース  
② ドクターコース  
③ 学部および大学院コース

締切: ①, ②—1973年1月15日  
③ —1973年3月1日

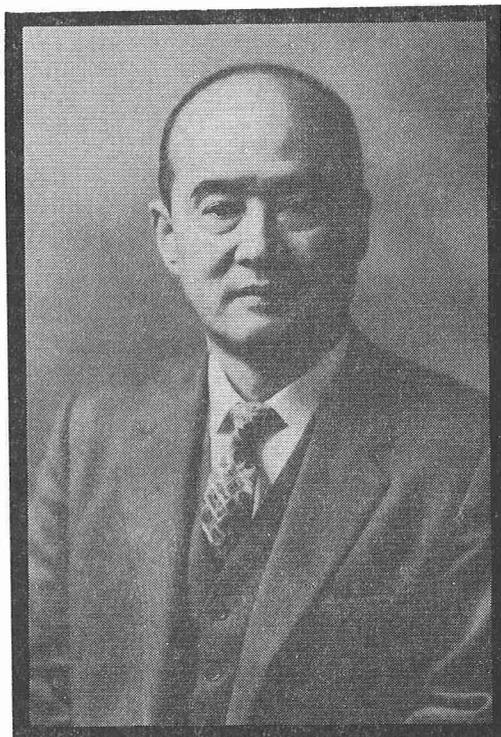
(2) 昭和48年度オーストリア政府奨学金留学生の募集について

専攻分野: 人文科学, 社会科学, 自然科学, および美術  
応募資格: 大学卒業生, 年令36才未満

締切日: 48年2月14日(水)

その他, 詳細については理学部大学院掛まで照会のこと。

## 漆原名誉教授の逝去を悼む



漆原義之先生は、昨年秋以来ご健康がすぐれず東京阿佐谷の河北病院に入院されました。一時は御退院になり御自宅で療養につとめておられましたが、本年7月河北病院に再入院され、種々の看護も甲斐なく、11月4日午後5時すぎ、悪性肋膜腫瘍のために、71才の生涯を

閉じられました。まことに哀悼の念にたえません。

漆原先生は、明治 34 年 5 月 14 日、松山市でお生まれになり、東京に移られ、早稲田中学、第一高等学校をへて、大正 15 年 3 月東京帝国大学理学部化学科を御卒業になりました。御卒業後直ちに東京大学理学部助手として研究と後進の指導に従事されましたが、昭和 2 年には東京帝国大学助手理学部勤務となり、昭和 8 年 5 月には助教授に昇任せられました。昭和 20 年 11 月には東京帝国大学教授合成化学講座担任を命ぜられ、昭和 21 年 11 月には化学第四講座を担当、昭和 29 年 9 月には有機化学第一講座を担当せられました。そして昭和 37 年 3 月定年をもって御退官になるまで、実に 36 年の長きにわたって、東京大学理学部において、後進の指導と研究に従事されたのであります。

漆原先生は、本学部の有機化学を、そしてわが国の理論有機化学を、今日のような形に育てあげた方だといわれています。先生が最初に手がけられた研究は、グルタコン酸およびその誘導体の化学でした。正確な実験の結果、それまでに考えられていた誤を正し、今日でいうプロトローピーの概念を確立されました。また、イギリス留学中に発見されたウンデセン酸への臭化水素の異常付加も、先生の正確な投術と深い洞察力とがもたらしたものでした。これは、やがて、酸素効果へと発展し、有機化学における遊離基化学の端緒となりました。先生はまた、有機化合物の立体構造にも強い興味をお示しになり、ステロイド類の化学は合成発情物質へと発展し、これはやがて、わが国における構造有機化学の萌芽となったものであります。カルボン、ケイ皮酸などの多形についての御興味も、分子の立体構連という面から発展したものでした。その上、先生はいわゆる漆原触媒を發明されました。これは非常に簡便につくることがで、また性能もこれまで知られていたラネーニッケルに勝るとも劣らぬものであります。

これらの御業績を拝見しても、漆原先生の門下から、わが国有機化学の広い分野で活躍している人が輩出したことが、理由なしとしないことがわかるのであります。現在でも、理学部化学教室の有機化学では、4 講座が合

同でコロキウムやセミナーを行なっておりますが、これは、先生が身をもって示された幅広い人の養成という理念を、受けついでいこうとする努力の表われであります。

漆原先生は、教育・研究面だけでなく、本学の行政面でも多くの業績を残されました。昭和 28 年 8 月より同年 10 月まで、および昭和 29 年 7 月より同年 9 月までの 2 回にわたって、東京大学大学院化学系研究科の委員長代理をつとめられた他、数次にわたって東京大学大学院協議員をおつとめになり、本学新制大学院の態勢づくりに御努力になりました。また昭和 36 年 4 月には本学大学院化学系研究科の委員長となり、退官にいたるまで本学の行政に尽力されたのであります。

漆原先生は、きちょうめんな方でした。新しい学生が入って来る前に写真で顔をおぼえてしまうのだとおっしゃっていたのをうかがったことがあります。名前を呼んで対話のできる事が、教師としてのつとめの一つだという御意見もうかがいました。このきちょうめんさが、先生を化学用語統一の努力へとかりたてたのではなかったでしょうか。有機化合物命名法の訳出とわが国における命名法の確立には先生は大変な努力をはらわれました。600 万を越すとされる有機化合物の情報整理は、今日の情報科学の大きな課題の一つになってはいますが、先生はずっと昔から、この問題の重要性にお気づきであったに違いありません。

漆原先生は、本学を定年で御退官後、上智大学教授として、理工学部の創設に御尽力になりましたが、本年 3 月には、定年をもって御引退になっておりました。上智大学では、やさしい先生として、若い学生の敬愛をお集めになったとうかがっております。孫のような学生を前にして、先生本来のやさしさがでて来たものであります。

まだまだ御健康でいらしゃって、先生のまかれた種がどのように育っていくかを見守っていただきたかったと思いますが、今にわかには御他界になり哀惜の念にたえません。謹んで御冥福をお祈りいたします。

編集 塩田 徹 治

理・1 号館 315 号室 電話内線 2866 または 3108